

当社は、地球環境保護のために、事業活動における環境負荷低減を推進しています。
 主な環境パフォーマンスの2016年度から2020年度までの推移は以下の通りです。

<集計範囲> 日本電産サンキョー株式会社(国内全事業所)及び東北日本電産サンキョー株式会社

1. 省エネルギーの推移

当社は、地球温暖化対策の課題である温室効果ガス排出抑制に向け省エネ活動を推進しています。高効率設備への切替え、既存設備の運用改善、省エネに関する社内啓蒙活動などを主な活動として、省エネ・CO2排出削減を進めています。また、毎年全事業所を対象に社内省エネ診断を実施しており、省エネ対策のアドバイスと改善フォローに取り組むことで、社員の省エネ意識向上に繋がっています。

環境パフォーマンスは、電力、A重油、灯油、LPG、都市ガスについてモニタリングを実施しており、目標値は、前年比△1%で取り組んでいます。

温室効果ガス(CO2)排出量



CO2排出総量は、13,215t-co2、前年比△7.3%の減少となりました。2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、事業所の休業、営業部門の在宅勤務などの施策を実施しており、電気や燃料の使用が減少しました。

電力使用量



電力使用量は、27,189千kWh、前年比△3.2%の減少となりました。

燃料使用量 (A重油、灯油)



A重油及び灯油の使用量は、92kl、前年比△29.2%の減少値となりました。2020年度は、ボイラー稼働時間の短縮でA重油使用量を削減しました。また、暖冬だったことも灯油使用削減に繋がりました。

LPG使用量



LPG使用量は、21,251kg、前年比△6.7%の減少となりました。2020年度は暖冬の影響で暖房用のLPG使用が減少しました。

都市ガス使用量



都市ガス使用量は、102,787kl、前年比△10.1%の減少となりました。都市ガスは、樹脂成型品の生産を主とする事業所の空調に使用しています。2020年度は、コロナ影響により一部製品の生産調整を行った為、生産エリアの空調停止により都市ガス使用が減少しました。

2. 省資源の推進

資源循環型社会の実現に向けて、限りある資源の有効活用に取り組んでいます。世界的に水資源の確保が重要な課題となっている中、水使用量の削減と有効利用を推進しています。また紙の使用量削減に向けて、業務帳票等のペーパーレス化を積極的に推進しています。

取水量、PPC用紙使用量をモニタリングしており、目標値は前年比△1%で取り組んでいます。

取水量



取水量は、52,879m³、前年比△19.4%の減少となりました。2020年度は、上水道地下配管の漏水工事、冷却塔の点検修理等を実施し水の無駄使いを改善しました。

PPC用紙使用量



PPC使用量は、1,975千枚で、前年比△27.5%の減少となりました。2020年度は、コロナ禍に於けるオンライン業務が積極的に導入された為、社内のペーパーレス化が進みました。

3. 廃棄物の削減

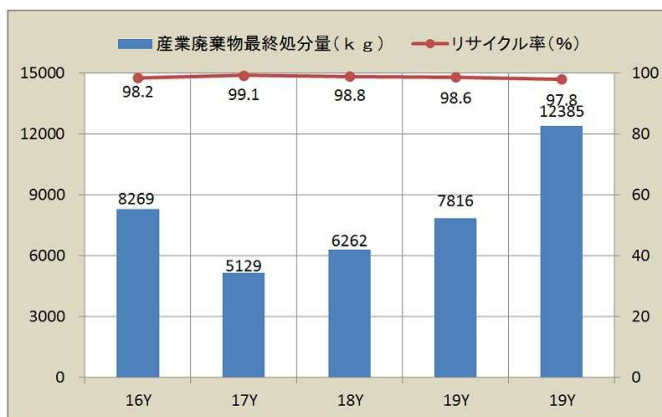
循環型社会の実現に向けて、3R活動（Reduce、Reuse、Recycle）を推進しゼロエミッションを目指します。2020年度までは、一般廃棄物リサイクル率 $\geq 90\%$ 、産業廃棄物リサイクル率 $\geq 99\%$ を目標に取り組んで参りましたが、2021年度からは、廃棄物(一般廃棄+産業廃棄)最終処分量の総量削減を目標に変更して取り組んでいます。

一般廃棄物排出量/リサイクル率



焼却処分される一般廃棄物最終処分量は、6,890kg、前年比△23.1%減少し、リサイクル率は90.2%で目標達成となりました。

産業廃棄物排出量/リサイクル率



埋立て処分される産業廃棄物最終処分量は、12,385kg、前年比58.5%増加し、リサイクル率は97.8%で目標未達となりました。産業廃棄物は、生産の増加による総排出量の増加に伴い、最終処分量も年々増加傾向にあります。2020年度については、工場整理に伴うスポット的な廃棄が発生した為、最終処分量が大幅増加となりました。